

いきいき市民活動センターの評価方法について

1 評価の基準

各センターの活動について、「市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業」の取組内容に関する評価を行うとともに、センター運営に関して、「貸館事業」、「情報の発信」、「業務執行体制」に関する評価を行う。

評価項目	主な着眼点
市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業	○計画の具体性及び独創性 ○幅広い市民の交流を目的として、広く市民の参加が得られるよう努めているか。 ○地域、利用者及びNPOなど他団体との連携 ○事業の広報方法 ○利用者ニーズの把握及び次回事業への反映の方法
貸館事業	○貸館業務を適正に行っているか。
情報の発信	○情報の発信を積極的に行っているか。
業務執行体制	○施設の維持管理を適正に行っているか。 ○市民活動支援に必要な人材育成がなされているか ○管理運営業務に係る経費の取扱い

2 評価の参考とする資料等

- ・ 市民活動支援・活性化事業等
 - ・ 貸館事業
 - ・ 情報の発信
 - ・ 業務執行体制
- } 事業報告書等

事業報告書並びに京都市が実施した業務及び財務監査結果を基に評価
 なお、評価については、監査時点での業務執行に係るものである。

3 評価方法

各センターの施設規模、地勢、交通利便性、人口構成等の立地条件や指定管理者の特長等、施設管理運営上の条件がそれぞれ多様であることから、一律の評価軸で評価を行うことは困難であると判断し、センターごとに、評価項目について、文章記述による評価を行う。

評価に当たっては、令和6年度の評価を受けて令和7年度にどのように進展したのかという点を踏まえ、センター運営の質の向上につながることを主眼に、評価できる事項、課題となる事項などについて意見を付す。

また、令和8年4月から新たに始まった現指定管理期間4年間について、「京都市いきいき市民活動センターの今後の在り方の基本方針」を踏まえた更なる取組の発展に向けて、各センターに対して、「令和8年度に向けた助言等」を記載する。

【参考：令和6年度評価報告書 北いきいき市民活動センター】

ア 令和6年度の評価

評価項目	附帯意見
市民活動支援・活性化事業	・ 地縁団体や社会福祉協議会との協働で市民活動と市民活動支援を着実に広げていること、地域に根差した活動や文化的背景や地域のリソースを活かした事業、他事業者との連携が評価できる。 ・ 子どもから高齢者、多様な立場の人々が参加可能な事業を展開するとともに、様々な事業を通じて地域課題解決へ貢献している点は評価できる。教育冊子プロジェクトや歴史・文化活動ボランティア養成は若者の参加を促し、Win-Winの関係を築いており、今後が期待される。 ・ 船岡山西ストリートでの取組は毎年成果があり、具体的な地域課題を話し合うプラットフォームとして活動している点が評価に値する。また、市民活動と子どもたちの体験を掛け合わせ、様々に工夫している点も評価できる。また、運営スタッフの「地域へ出ていく活動」も評価できる。
貸館事業	・ 前年度から微減ではあるものの、安定した利用件数は評価できる。
情報の発信	・ センター紹介パンフレットの改善に加え、HPの情報発信やYouTubeでの積極的な動画配信も評価できる。
業務執行体制	・ 施設の維持管理については、概ね問題なく行われている。 ・ 収支状況については、管理運営業務の適切な執行のために必要な経費支出を効率的に行っている。

イ 令和7年度に向けた助言等

① 市民活動支援・活性化事業をはじめとする事業全般 ・ 市民団体間の交流促進に向けた仕掛けを検討することを期待する。また、アンケート調査の詳細な分析を通じて課題を明確化し、対策を講じることを期待する。特に「どちらでもない」という回答が多い点は、新たな市民活動創出の機会を逃している可能性があり、今後の課題として取り組むことを期待する。 ・ 後継者となる若者世代の参画は引き続きの課題であり、単なる参加だけでなく、継承に意欲ある若者が継続的に関わる仕組み作りを期待したい。また、必要に応じて京都市青少年活動センターなどとの連携により、多層的なサポート体制を構築することも有効である。 ② 施設管理等 ・ 左京東部いきいき市民活動センターが令和7年度末に終了することから、影響を受けることが考えられる会議室等予約に係る20時間枠の弾力的運用に期待したい。 ・ 千本地域の人権教育絵本・マンガプロジェクトは興味深い内容であり、今後の展開に期待するとともに、地域の歴史・文化活動ボランティア養成にも注力してもらいたい。 ・ 情報発信に関して、映像アーカイブ化を進め、Youtubeでの収益化や、他センターとの共同勉強会を通じた撮影・編集・発信・周知の工夫を検討することを期待する。
